

日米医学医療交流財団 研修助成

研修報告書 (2014年度 助成者)

作成日 2014年11月1日

氏名 (フリガナ)	金城 真一 (キンジョウ シンイチ)
研修名・研修地	アメリカ短期看護研修 (アメリカ・オレゴン州ポートランド市)
研修期間	2014年10月12日 (日) ~ 10月18日 (土)
所属機関名 身 分	滋賀医科大学医学部附属病院 看護師長

この研修で印象的だったのは、医療機関の訪問で感じた質の高いサービスと、難易度の高い看護が提供できることでした。

まず、訪問した医療機関の中でも、特に質の高いサービスが提供されていると感じたのは、「プロヴィデンス・セントヴィンセント・メディカルセンター」と「OHSU 附属ドーンベッカー小児病院」でした。「プロヴィデンス・セントヴィンセント・メディカルセンター」では、「マグネット・ホスピタル」について学びました。日本にも、病院の質 (手術件数や症例数など) など指標で測られる、似たような認定施設制度はあります。しかし、ホスピタリティが病院の総合的な質を示す一番の指標とするなら、それには看護の質が最も端的な指標となるのだと感じました。次に「OHSU 附属ドーンベッカー小児病院」です。ここでは「ChildLife Specialist」の存在がとても心に残り、子供と家族のための施設運営がなされていることが随所にみられ、オレゴン州内のリーダー的な役割を担う大学病院であると感じました。その他、プロヴィデンス・ポートランド・メディカルセンターでは、Acute Stroke Care での看護師の役割として t-PA のプロトコルが紹介され、日本よりも早い段階で脳梗塞の治療が開始されていることに驚きました。カラログ・テラス高齢者施設では、様々な設備が兼ね備えられており、自立支援のための段階に応じたケアが提供されていました。AMR 救急指令センターでは、質の高い、地域に密着した施設であり、訪問したそれぞれの施設からアメリカと日本のヘルスケアの違いについて学ぶことができました。

教育について、「ポートランド大学看護学部ラーニングリソースセンター」を訪問し、シミュレーションセンターを見学しました。このシミュレーションセンターでは、実際の医療施設の環境に類似し実践が学べる最先端な教育設備であり、難易度の高い看護が提供されるアメリカでの教育と感じました。また、ポートランド州立大学でも、様々なレクチャーを受けました。「看護教育コーディネーターの役割」についてのレクチャーでは、アメリカでの臨床看護師の教育が紹介されました。日本でも、臨床看護師を育成していく必要性が重要視されており、現場での教育の必要性がこのレクチャーで再認識できました。また、全米で唯一認められているオレゴン州での「尊厳死」について学ぶ機会があり、これもアメリカと日本との文化的な違いがあるのではないかと深く考えさせられました。

最後に、今回の研修で最も印象的であり衝撃的であったのは、プロトコルに沿った難易度の高い看護が提供されていることでした。日本では、医師の指示の下に「診療の介助」が行われている。いわゆる医師の具体的指示で看護師は診療に携わっています。しかし、アメリカでは難易度の高いケアを提供するための教育が行われ、それが現場で実践されています。患者にとって看護師は、異常などの早期発見が一番に行える医療従事者であり、医師の指示を待たなくても、プロトコルですぐにケアを提供できることは、とても重要であると感じました。日本でも、この制度に似た取組みが行われようとしています。近々、難易度の高い特定行為が行えるよう教育がスタートします。高齢化が急激に進む日本にとっては重要な課題です。

最先端医療の国のヘルスケア現場を多方面から学ぶ特別研修として興味深く参加させていただきました。医療の現場で、大きく差を感じる場所もあれば、そうでない場所もありました。しかし、看護の質の面では、大きく差があると感じました。根本的に看護教育 (看護師の育成) から既に違いがあり、結果的にそれがアメリカと日本とのヘルスケアの違いになっているのではないかと感じました。